

資料2 ホームルームの活動目標と共通テーマ

<p>○ ホームルームの活動目標</p> <p>学年毎の具体的な目標を設定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年 高校生としての自覚をもち、高校生活の意義を考えよう。話し合いの精神を養おう。 2年 社会に対する関心を深め、進路を考えよう。 3年 進路を決定し、社会生活への準備をしよう。自己をみつめ、人生を考えよう。 <p>○ 学年共通テーマの設定</p> <p>各部から提案された共通テーマの主なものは次のとおりである。</p> <p>【生活指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 性教育教室 ・交通安全教室 生活に関する諸調査(個人相談カード、服装自己診断カードなど) <p>【進路指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 先輩の進路(「進路資料」配布) ・進路別校内説明会(2年、3年) 生徒指導検査(1年) ・学習適応検査(1年) 職業適性検査(3年) <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 奉仕活動(校内の美化活動一年1時間以上) レクリエーション(校内施設利用の時間配当) <p>○ 共通テーマの設定理由と資料</p>		
共通テーマ	設定理由	資料とその内容
・学校紹介	・新しい環境への適応を図る ・担任と生徒の親密感を深める	○「学年通信(1号)」各組の担任を楽しく紹介している
・自分を知る(1)(2)	・生徒の自己理解を深め自律心を持たせる ・生徒の問題行動の要因を把握する	○別記の三種の検査を実施 ○「生徒指導検査結果」要因別に学級の傾向が把握できるように作図した
・高校生活の理解	・しっかりとした高校生活を設計させる	○「学年通信(2号)」高校生活のチャート 学習の評価法 進路と受験科目
・先輩の進路	・生活指導の個別化 ・早期に進路意識をもたせる ・職業観を育成する	○「個人相談カード」を利用 ○「進路相談カード」を利用 ○「進路資料」の利用
・生徒会関係	・生徒会の自主的活動を育成する 自分達の問題として考えさせる	○「先輩の進路を知る」学部・学科別の進学状況 どんな職種を選んだか ○生徒会役員選挙 ○校内球技大会の実施要項 ○新しいゲーム形態や実施法について討議する

1 (六) 交通安全指導の実施 研究の方法

からの記事を載せる。また、「学年通信」を六十三年四月から毎月発行している。

2 研究の成果と今後の課題

家庭訪問、PTA方部会、PTA会報、新聞等を通して、家庭との連携を深め、情報交換を図ることによって、より具体的な生活状況が把握でき、好ましい家庭生活への意識が高まり、生活指導に大いに役立った。

今後、生徒を通じての伝達には完全を期し、情報交換を深め、内容を充実させることによって、家庭との緊密な連携を図れるよう工夫したい。

特別活動

- ビデオテープを利用した安全教育
- ホームルーム時にビデオを視聴して感想を交換することにより、交通安全の意識高揚を図る。
- 通学路での交通指導
- 自転車通学者に届を提出させ、登録証を交付し、正しい乗り方を指導する。
- 四プラスない運動の啓蒙
- 交通安全についての指導を通して安全の意識が高まってきた。しかし、意識の高揚はあっても、まだ行動にまでは至っていない点も認められる。

1 (一) ホームルームの充実

ホームルームの時間と今後の課題

ホームルームの時間を充実するため、運営についてはテーマ設定の工夫とリーダー養成について研究し、指導内容については進路意識の高揚を図ることに重点を置いた。

本校の教育目標と学年や学級における活動との連携を図るため年間の活動目標を立て、それをもとに学年共通テーマを設定する。(資料2参照)

(2) 研究方法

① ホームルーム年間計画の作成

基本的な生活習慣を確立するために、同一学年の教師の共通理解に基づいた連携が必要となるので、共通テ

マを多くした。また、学年通信を発行し、これをホームルームの主要資料として利用する。(資料4参照)

(3) 研究の成果と今後の課題

共通テーマを例年より明確に設定したので、各部や各科の行事の趣旨が明らかになり、学年やクラスへの対応が容易になった。

生徒指導部の服装の自己診断カードや球技大会実施要項などにも工夫がなされ、進路部の進路日より第一学年の学年通信も充実して、ホームルームの資料として、一層使い易いものになった。

今後は、とかく教師主導型に終始しがちであった生活指導にかかわる問題や問題行動なども生きた話題としてあげ、ホームルームに対する生徒の関心を高め、積極的に参加する意欲を持たせることも必要であろう。

2 リーダーの養成

(1) 研究の見直し

一年生には学級をまとめたり、積極的に生徒会活動に参加した経験のある生徒が少ない。そこで学級生活の核となる学級委員とホームルーム運営委員の養成を図る。

(2) 研究方法

① リーダー研修

昭和六十三年八月二十日から二泊三日の予定で生徒会役員、執行委員、一年のホームルーム委員長など約五十名が参加して、裏ばんだい国民休暇村